

## 滝谷カルスト

滝谷カルストは、関西大学探検部のここ二年間の踏査で、しだいに明らかにされ、そのマイコミ平の全調査の中で、大きなウエイトを占めるようになった。

そもそも滝谷とは、何であるのか。滝谷は即ち、大穴の沢であり、4里洞を形成したものである。そればかりか、大穴の沢、ドリーネ群、ウバーレ等、滝谷カルストにあるすべてのものは、この4里洞形成という、大きな仕事を、してきたものであると、言える。

滝谷南尾根(カルスト尾根)は、青海の石灰岩地帯の中で、最も多くのドリーネがある。

カルスト尾根は、大穴の沢と、南沢とに、はさまれた、巾広い、尾根で、沢から尾根までの高度差は、約40m~20mとなっている。ほぼ、どの地点でも合形となり、沢へは、かなり急である。上部は、下部に比べて尾根が狭くなっているが、ドリーネは、かなり、上部のちみである。

### ▷滝谷下部カルスト

滝谷南尾根は、4里洞を形成してきたと思われる、沢、ウバーレがある。

通天洞から、大穴へのウバーレ、滝谷尾根の中から、大穴の方へ向う、ウバーレ2本として、大穴の沢と、4里洞を形成する放射状の谷がある。この地帯の特色は、ドリーネが発達し、ウバーレ、もしくはウバーレ状になってきていること、即ち、ドリーネ、及び洞窟の発達段階として、最も進んだもの、即ち、最も激しく侵食されてきたものと思われる。滝谷サ3、4洞が、これに、含まれる。

### ▷滝谷上部カルスト

滝谷南尾根下部は、きわめて発達しているが

上部では、未発達である。滝谷カルスト尾根上部は、ドリーネも、まばらで、かつ、ドリーネ斜面が急である。また、ラピエヌ、カルンフェルドが発達していることは、石灰岩が、土中で侵食されていったことが、わかる。即ち、下部カルストは、流水によって、形成され、上部カルストは、土中で、化学的侵食を受け、ゆるやかに、発達したものであると思われる。上部と下部のちがいは、カルスト地帯、どこにでも、あることであると思う。

### ▷滝谷尾根

滝谷尾根(カルスト尾根)は、北部が南部より低くなっている。即ち、大穴の沢が最も低くなっているということである。これによって、4里洞が発達したといえる。

### ▷南沢

南沢は、石灰岩地帯と、非石灰岩地帯との境である。

4里洞が、何故、深いか。それは、沢と、ウバーレが放射状に、集中しているからだ。

### ▷4里洞(小穴)

小穴のドリーネの北側は、30mにもなる岩壁がある。それは非石灰岩であるが、何故、ここに、こういうものがあるのか。

白蓮洞から4里洞(小穴)へ向う、谷間、この谷が、かつては、沢であり、その岩壁がその作用で出来て、このこされたものと思われる。そして沢の途中に、4里洞、等が発達した?

### ▷マイコミ平

マイコミ平には、莫大な量の、石があり、3m~5mの丘陵となっている。これらの石ころは、4里洞、が発達する以前に、あらゆる谷から運ばれてきたものと思われる。

以上は、あくまで推測である。(田中、記)